

みどりの循環県民活動推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	環境エネルギー部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ6 再生可能エネルギーによる産業振興と地域活性化、国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	施策	施策2 国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	目的	県土の7割を占める豊かな森林資源や湧水等の水資源など、県民にとって貴重な財産である自然環境を守りながら、地域の産業や暮らしに活かし、次世代につないでいく。						
	目標指標(R2)	自然公園利用者数	14,000千人					
	策定時の実績	11,255千人(H27)	現状	11,300千人(H28)	主要事業	豊かな環境を守り、活かす自然共生社会の構築		
事業名	みどりの循環県民活動推進事業費			担当課・担当	みどり自然課 みどり県民活動推進担当			
事業開始年度	平成29年度			事業終了(予定)年度	令和3年度			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	第38回全国育樹祭により高まった「本県の豊かな森を守り、活かし、次の世代に継承する」機運を県民参加の森づくりにつなげるとともに、豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として暮らしに活かしながら次世代に引き継ぐ県民活動を推進する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	(1)みどりの循環県民活動の推進 様々な体験できるメニューにより、森と暮らしのつながりを感じる取組みを年間を通して進めていく。 ①「やまがた森の感謝祭2018」及び県内3ヶ所で地域の森の感謝祭を開催する。 ②森を守り・育て・暮らしに活かす「緑の循環システム」への理解を深める各種体験イベントを開催する。 ③森のホームステイを安定して実施するための実証事業を実施する。 (2)普及啓発の推進 やまがた緑環境税の趣旨や税収の使途等、制度全体の仕組みの周知を図る。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：より多くの県民にやまがた緑環境税の趣旨を理解してもらい、様々な森づくり活動を安全かつ効果的に実施してもらうため、直接実施による普及啓発及び委託による各種体験会の開催等を実施する。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	みどりの循環県民活動推進の推進	5,742	6,053					
	普及啓発の推進	9,821	8,605					
	計	15,563	14,658	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金	15,269	14,381					
	その他特定財源	294	277					
	一般財源							
	計	15,563	14,658	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	体験会等の開催数 (・やまがた森の感謝祭・各地区森の感謝祭・森のホームステイ活動・間伐体験会・森のエネルギー体験会・「やまがたの木」体験会等)	活動実績	回	32	30			
		当初見込み	回	23	23	23	23	23
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	県民参加の森づくり活動への参加者数。 (H28年度県民参加の森づくり参加者数100,673人)	成果実績	人	102,767	102,611			
		目標値	人	101,900	103,600	105,300	107,000	107,850
		達成度	%	101%	99%			
関連事業	みどり豊かな森林環境づくり推進事業 やまがた絆の森づくり推進事業 森づくりサポート体制推進事業 やまがた木育推進事業							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

平成27年度及び28年度に実施した「やまがた緑環境税評価・検証」において、みどり豊かな森林環境づくりの推進に関する目標「やまがた緑環境税を活用した森づくり活動への参加者数」を算定する段階で、平成27年度の県全体の森づくり活動などへの参加者数98,618人を基礎として、平成25年度から27年度までの増加状況を勘案し、令和8年度の県全体の森づくり活動などへの参加者数を111,888人と算定した。令和2年までの目標を年間1,700人づつ、その後を850人づつ増加することとして目標を算定した。平成28年100,000人 平成29年度101,900人、平成30年度 103,600人、令和元年度105,300人、令和2年度 107,000人、令和3年度 107,850人として設定。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	・平成28年度のやまがた緑環境税の評価・検証に基づく「やまがた緑環境税活用施策の今後のあり方」に沿って実施する県民参加の森づくり、豊かな森林資源を次世代に引き継ぐ県民活動を推進する事業であり、重要度が高く、また、目標水準も妥当である。 ・平成30年度実績は、目標値に対する達成度が99%でほぼ達成されている。
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	
活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A		
事業内容の妥当性	支出先の選定は妥当か。	A	・やまがた森の感謝祭などの体験会を30回開催し、計画を上回る実績となり、多くの県民に対する普及啓発が図られた。 ・事業の経費については、業務実施に必要不可欠な費用に限定しており、また、「県民みんなで支える森づくり」の意識を醸成することを目的とする事業であることから、無料の行事とすることは妥当である。 ・広告掲載については、購読契約数の多い地元紙を選定している。 ・実行委員会を設立し事業を実施しており、効果的かつ効率的に事業が実施された。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	本県の豊かな森を守り、活かし、次の世代に承継する機運を全県的に醸成する事業であり県が実施すべき事業である。
今後改善の課題	「本県の豊かな森を守り、活かし、次の世代に継承する」機運を県民参加の森づくりにつなげるとともに、豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として暮らしに活かしながら次世代に引き継ぐ県民活動をさらに推進する必要がある。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

—: 該当しない